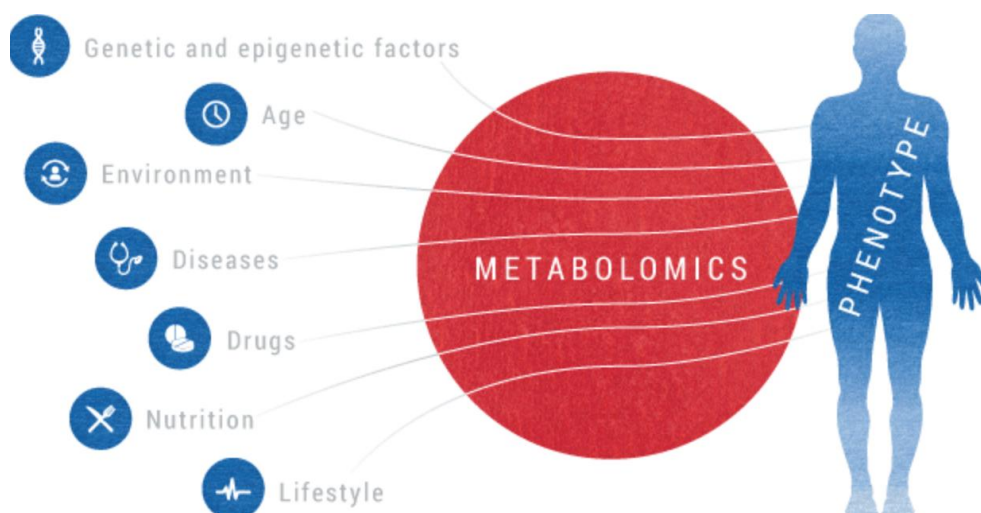
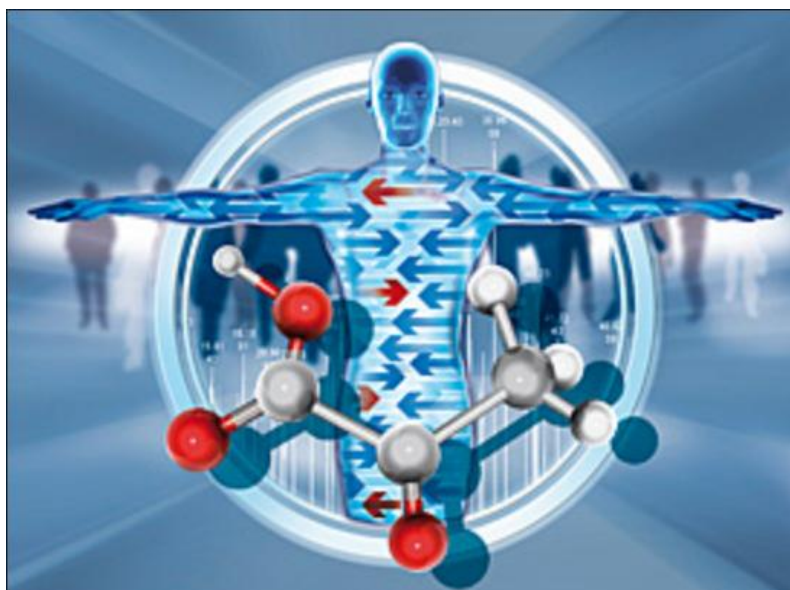


# 大腸癌のメタボローム解析と大腸内視鏡検査

神戸大学は、ガスクロマトグラフ質量分析計を用いて血液中の代謝物を網羅的に分析するメタボローム解析により、早期大腸がんを高感度で検出できる方法を開発し、研究結果を米科学誌「Oncotarget」オンライン版に掲載しました。



研究グループは、大腸がん患者と健常者検体の血漿中の代謝物を網羅的に解析した結果、大腸がん診断に利用できる8種類のマルチバイオマーカー（ピルビン酸、グリコール酸、トリプトファン、パルミトレイン酸、フマル酸、オルニチン、リシン、3-ヒドロキシイソ吉草酸）を発見。これら8種類の代謝物データに基づいて、感度、特異度とも96%を超える大腸がん診断予測式を作成し、早期大腸がん患者においても、高い感度を保つことが確認されました。



これらの**大腸癌新規バイオマーカー**と  
**大腸内視鏡検査**の組み合わせにより、  
大腸がんの早期診断に大きく寄与する可  
能性が期待されます。

